



2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦
2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦
第47回MFJグランプリ
スーパーバイクレース in 鈴鹿
TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

10月31日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ
公式予選／2' 07"788 10番手
11月1日(日曜日) 天候：曇り 路面：ドライ
決勝／RACE1：7位(9周) RACE2：7位(15周)
開催地：三重県・鈴鹿サーキット(1周=5.821km)
入場者数：23,500人(2日間合計)

全日本ロードレース選手権最終戦が三重県・鈴鹿サーキットで行われた。今年も事前テストがなかったため、木曜日の特別スポーツ走行からのスタートとなった。2レース制で、ボーナスポイントが3ポイント付くのは例年通りだ。

通常より1日多いスケジュールだったが、初日はマシンに不具合が出てしまい、2日目の2本目では、コースイン直後に他車と接触し転倒するアクシデントが発生。高速コーナーだっただけにマシンは大破。山口は背中を中心に全身を痛め、スタッフも朝4時までマシンの修復に追われた。このため2日間は、思うようにマシンセットは進まなかった。

そのしわ寄せが土曜日の公式予選に来ていた。今回もノックアウト方式だが、40分のセッションで争われるQ1でレース2の、TOP10サバイバルで争われるQ2でレース1のグリッドが決められた。山口は、まずQ1で2台のマシンの状態を確認し、マシンセットを進めて行く。いつもならば、1セットで通すところだが、前日までにタイヤの確認ができていなかったこともあり、セッション終盤にタイヤを交換しアタックに入ると、計測最後の周に2分07秒788をマークし10番手に食い込みQ2への進出を決める。

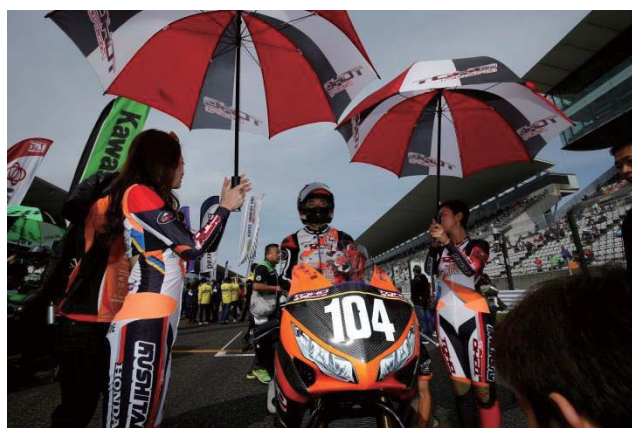
TOP10サバイバルで行われたQ2。第3戦ツインリンクもてぎでも行われたが、そのときは、1台ずつ脱落していくものだったが、今回は2台ずつ。しかしタイヤ的には、厳しい状況だったため上位を狙うことは困難だった。それでも2分08秒448を出し、決勝に向けたデータを取ることができた。

10周で争われる予定だったレース1。スタート直前のウォームアップラップでアクシデントが発生。仕切り直しとなり、1周減算の9周で争われることになった。ただでさえ短いレースだったものが、さらに短くなり、ハイペースになることは間違いなかった。山口は、まずまずのスタートを切るが、デグナーカーブ進入でリアが浮いてしまい大きくはらんでしまいポジションを落としてしまう。そこから追い上げて行き、オープニングラップは9

番手。6周目に前を走っていたライダーが転倒、さらにシケインで秋吉選手をかわし7番手に浮上。そのまま秋吉選手を引き離し7位でチェッカーフラッグを受けた。

レース2は、当初20周で行われる予定だったが、J-GP2クラスで赤旗中断があったため15周に減算されてスタートした。ハードタイヤをチョイスした山口はやや出遅れるもののペースをつかむとポジションを上げ、5周目には6番手に浮上する。そのまま単独走行となって行くが、9周目にスプーンカーブで転倒したマシンがコース上に残ってしまったため赤旗中断。8周終了時の順位でグリッドにつき、残り7周で再スタートされることになった。

タイヤは、そのまま変えることなく行くしかなく、一度冷めたものに熱を入れるのは難しく、さらに路面温度も下がっていたことからオープニングラップは、慎重にならざるを得なかった。2周目には、前を走っていたライダーが転倒し、8番手に上がると、同じHonda CBR1000RRの市販キット車を駆る秋吉選手に追い付いて行く。5周目には完全にテールtoノーズとなりチャンスを伺う。同じマシンを駆るライダーだけに、絶対に負けられない相手でもある。そしてファイナルラップに入るホームストレートでTOHO Racingメンテナンスのパワーが炸裂！ 1コーナーで前に出ることに成功し7番手に浮上。そのまま7位でチェッカーフラッグを受けた。最終戦では34ポイントを加算、シリーズランキング6位で2015年シーズンを終える結果となった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「木、金と問題があり、公式予選からマシンをセットしていった状態でした。金曜の転倒で身体も痛かったですが、チームスタッフが決勝までに楽に乗ることができるマシンに仕上げたので、痛みを我慢しなくてもライディングできました。いいラップタイムを刻めましたし、エンジンもキット車最速だったと思います。今年は表彰台に上がることはできませんでしたが、マシンの進化したシーズンだったと思います。これも多くの方のご協力のおかげです。本当にありがとうございます。来シーズンこそ勝利をつかめるように頑張りますので、応援よろしくお願いいたします」

チームメカニック 戸井田剛コメント

「最終戦は6秒台に入れることと表彰台の3位以上を目標にしていたが新しい試みが上手くセットアップできず、初日、2日目といいリズムで走行させることができませんでした。予選ではライダーの頑張りもありTOP10に残れたのはよかったです。レースは2ヒートともセットアップが不十分なため序盤ペースを上げることが出来ず、両ヒートとも7位という結果で終わりました。応援してくださったファンの皆様、またスポンサー様には申し訳ない結果となってしまいました。今シーズンは表彰台に登壇することは出来ませんでしたが、8耐では2人のGPライダーを迎え全日本でも大きなトラブルもなくシーズンを終えられ、わずかではありますがチームが成長できたと思っています。これもファンの方々、スポンサー様のおかげだと思っております。この場をお借りして御礼を申し上げます。今後ともご支援、お力添えの程よろしくお願い致します。1年間ありがとうございました」

総監督 福間勇二コメント

「最終戦とあり今シーズンの締め括りとして良い結果が残せるようチーム一丸となり取り組みましたが残念な結果となりました。スポンサーの皆様には1年間多大なるご支援、ご協力を頂き無事に今シーズンを終えることが出来ましたことを心より御礼申し上げます。またTOHORacingを応援してくださいました皆様、ありがとうございました。これからもチーム一同精一杯精進して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます」

株式会社TOHO
TOHORacing with MORIWAKI
担当：三山